4/29
赤旗

またも核威嚇 プーチン発言

第三国介入に「反撃」、けん制

ロシアのプーチン大統領は27日、第2の都市サンクトペテルブルクで演説し、第三国がロシアのウクライナ侵略への介入を意図し、「われわれ（ロシア）にとって受け入れがたい戦略的脅威をつくりだそうとする」ならば、「電撃的で素早い反撃にあうことを相手は知らなければならない」と述べました。これについて英BBC放送は、核兵器や大陸間弾道ミサイル（ICBM）の使用を示唆したと報じました。

ロシア大統領府が公表した演説全文によると、プーチン大統領はロシアの「特別軍事作戦（ウクライナ侵略）」について、「ウクライナ政府が核兵器保有を要求し、欧米はウクライナに近代兵器を間断なく供与している」中で、「正しいものだった」と改めて正当化。介入する第三国への反撃は、ロシア以外のどの国も保有していないものも含め「すべての手段がある」と強調。「もし必要になるならば、われわれは保有しているとはったりをかけるのではなく、使用する」と語りました。

使用する可能性のある兵器には、ロシア国防省が先に実験成功を発表したICBM「サルマト」や、小型核兵器などが含まれるとみられます。ウクライナへの武器供与など軍事支援を強化する欧米側をけん制、威嚇する発言です。

ロシアの核使用の可能性については、ラブロフ外相が25日に言及したばかり。プーチン氏自らが2月27日に、核戦力の「特別態勢」移行を命令したのが最初ですが、その後も続いています。

プーチン大統領の今回の演説を受け、米国防総省のカービー報道官は27日の記者会見で「ロシアの指導者たちが核兵器による衝突の危険をあおる発言を行っているのは、無責任だ」と批判しました。

「核抑止は誤り」改めて明確

日本原水爆被害者団体協議会
田中熙巳（てるみ）代表委員

プーチン大統領への批判が高まれば高まるほど、自分の主張が通らない場合には核使用もありうるという極めて危険な姿勢です。

核保有国は、核兵器を持っていても使うことはなく「核抑止」のために持っていると説明してきました。

しかし、プーチン大統領は「核使用」に言及したわけで、「核抑止は誤り」で攻撃に使われることが改めて明確になりました。

核兵器がある限り核兵器が使われる危険性は十分にあります。現実に核大国の大統領が侵略戦争を行っているなかでは冷静な判断はできないということを示しています。

核兵器と人類は共存できないと指摘してきた被爆者の声に耳を傾け、核兵器を速やかに廃絶するために人類は全力をあげるべきです。

↓抗議❽面